



加納高だめ

No.186 令和7年1月31日
 発行 岐阜県立加納高等学校
 PTA会長 堀江 弘美
 校長 高橋 宗彦
 企画・編集 総務部

文化祭推進委員長 3年2組 伊藤 侑希子

今年の白梅祭のスローガンは「TRY→PROGRESS
 描け、理想(ゆめ)の白梅祭(ファンタジア)」でした。

今年から復活した有志団体による発表や3年生の劇。
 美術科や音楽科の3学年合同の出し物や部活動による
 出し物。1・2年では、例年と違い2クラス合同で出し
 物をするクラスもありましたね。どの団体もそれぞれ
 創意工夫が凝らしてあってとてもおもしろかったです。

そして、舞台裏で文化推進委員会が活躍していました。
 皆さんと共に文化祭準備をする過程での学びはと
 ても多く、楽しかったです。

最後に、文化祭準備をする過程でお世話になった先
 生方や全校企画に協力してくれた全校の皆さんのおか
 げで白梅祭を創りあげることができました。ありが
 うございました。



白梅祭

9/10(火)・11(水)



CONTENS

- 白梅祭
- 美術科卒業制作展
- 芸術鑑賞会
- 音楽科卒業演奏会
- 2年美術科 海外研修旅行
- スポーツ大会
- ALT紹介

美術科 卒業制作展

10/22(火)～27日 岐阜県美術館

「卒業制作を終えて」

3年美術科 眞崎 桜桃

卒業制作に取り組む上で一番感じた事は、今までに経験した制作のどれとも全く異なっているという事だった。

卒展の練習とも言える「プレ卒」ともまた違った感覚があった。期間の長さ、気持ちの持ち方など色々と「違い」は感じたが、やはり一番は「これが3年間の集大成として見られるのだ」という意識と、ある種のプレッシャーだったと感じる。

そんな意識の中で色々と悩みながら制作した作品だったが、作業を終え、展示という段階まで来てみると、案外達成感とやり終えた「すっきり感」が強く嬉しく思っている。

学友や、それ以外の友人、家族からも色々な作品に対する好意的な反応をもらえ、自分の作品をどこか「肯定」できたのだと思う。

また、会場で小さな男の子が自分の作品の前で、笑顔でご両親に写真を撮ってもらっていたのを見た時、第一義の意味で心の底から「嬉しい」と感じた。

自分の作品が「完成する」だけでなく、それを見た人が何かを感じ取ってくれることまで想定するのが展示作品であり、その制作において大切なことなのだと改めて感じた。

そして、私自身のこれからの課題は、個性を表現する事だけに終わらず、その表現をもっと研ぎ澄ましていく事だと分かった。一步踏み出して、恥を捨てて、自分を出せるようになったのは、確かな成長なのかもしれない。



芸術鑑賞会

10/30(水) 劇団四季「バケモノの子」



3年音楽科 金崎 杏香

劇団四季の「バケモノの子」を観てプロの方々による演技や歌、本格的な舞台装置を間近に感じました。私が印象に残っていることは、動物のパペットを動かすシーンで、動かしている役者さんと息の合っている動きや種類の違う動物を動かすシーンがあり、動きは全く違うのにも関わらずその動きのリアルさや滑らかさに驚きました。

また各キャラクターの容姿が、映像からそのまま出てきたように感じられたことや、プロジェクションマッピングとパペットの親和性も高く、現実と映像の境界を感じさせない大迫力で美しい舞台で原作の世界観が生かされており、アニメを見ている方はより楽しめると思います。

そして物語の時の流れや場面を自然に描写していたことにも感動しました。主人公の迷い込んだ異世界とかつて住んでいた現実の世界を大掛かりな舞台装置で表現し、臨場感のある舞台でした。

今回の芸術鑑賞を見たことによって、自分の演奏にも活かせられるような表現力を感じました。舞台上で最も良い姿で立てることができるよう、この芸術鑑賞で得られたものを日々の練習に繋げたいです。

音楽科 卒業演奏会

12/14^土 サラマンカホール

3年音楽科 間宮 琉月

卒業演奏会は、私にとって音楽科での集大成の瞬間でした。2年前、私は自分の演奏に自信が持てず、周囲との実力差に悩んでいました。しかし、担任の清水先生から「人と比べるのではなく、自分の過去に勝つことが大切」と教わり、そこから毎日苦手な部分に焦点を当てて練習に励みました。努力を重ねる中で、自分の成長を実感し、少しずつ自信を持つことができました。卒業演奏会では、これまでの努力の成果を存分に発揮でき、心から楽しむことができました。また、ここまで来られたのは、共に切磋琢磨してきた17人の仲間たちの支えがあったからこそです。仲間たちに感謝の気持ちでいっぱいです。



2年美術科 海外研修旅行

11/28^木～12/5^木



「人との交流とスケッチ」 2年美術科 佐野 ひかり

イタリア研修に行って私が特に印象に残っていることは、人との交流です。日本とは違ってフランクな方が多く、すれ違い際やスケッチをしている最中に「コンニチハ」や「ハロー」と挨拶をしてくれたり、スケッチを見て褒めてくれたりする人もいました。見ず知らずの人と、日本語以外の言葉で話すことはとてもよい刺激になりました。何より絵を見て褒めてくれたことが一番嬉しかったです。トイレなど、日本と仕組みが少し違うことがあり、困ることが多々ありましたが、勇気を出して聞いてみると快く教えてくれました。このように言葉や文化は違うけれども、心が通じ合えるということはとても素晴らしいものなのだと思います。また、日本という郷土の豊かさについても改めて実感することができました。もう一つは、スケッチです。イタリアでのスケッチは、どこを切りとっても景色が美しく、とても楽しんで描くことができました。石畳やレンガ、コロッセオなどの観光地、人々など、どこを描いても描き足りませんでした。日本に帰ってからも、何か見つけるとスケッチをしたくなっていて、イタリアに行ったら良かったなと思いました。高校生のこの時期にイタリアに行くなんて夢のような時間でした。この経験を大切にして自分の作品や人生に活かしていきたいと思っています。





今年も昨年度に引き続き3学年合同のスポーツ大会を開催することができました。春の球技大会とは異なり、同じ学年の子だけではなく、部活動の先輩方、後輩たちと試合をしたり、応援したりと学年を越えて交流する姿がたくさんありました。また、失敗してもお互いに励ましあったり、声をかけあったりする姿も多くみられました。普段とは違う仲間の一面を知ることができ、より絆を深めることができました。多くの先生方、運動部活動の部員、体育委員会などのたくさんの方が準備、運営、後片付けに協力していただき、スポーツ大会を滞りなく開催することができました。こうした裏方の仕事や献身があってこそこのスポーツ大会であり、私たちは感謝の気持ちを忘れてはなりません。これからの行事でも学年を越え、仲間と支えあって更に加納高校を盛り上げていきたいです。



ALT紹介

Hello! My name is Kayla, and I am from a state called Indiana in the United States of America. Indiana is known for the Indy 500, which is a famous racecar race. The weather in Indiana is a lot like Gifu's weather, with hot summers and cold winters. I prefer warmer weather because I like to take my dog, Mochi, on walks and spend time outdoors. My interests are travelling, learning Japanese, and trying new food. While I'm here in Japan, I hope to do even more travelling. Next time I travel, I want to go to Shirakawa-go and Hida Furukawa. My favorite new food that I've tried so far here in Japan has been Hitsumabushi. I will always cherish the memory of my first time eating this delicious meal. This year, I want to continue trying new food, travelling, experiencing Japanese culture, and of course improving my Japanese. I look forward to seeing what this year has to offer!

